

川崎市総合計画市民検討会議 第2部会【子育て・教育】
議事録

日 時 平成26年12月21日（日）9:00～12:30

会 場 高津区役所5階 第2・3会議室

出席者

委 員 磯崎コーディネーター、荻原委員、小山委員、外山委員、加藤英雄委員、新富委員、馬場委員、松本委員、岡田委員、長谷川委員、加藤浩照委員、長野委員、小池委員、山下博子委員、山下千裕委員

市 側 唐仁原都市経営部長、久万企画調整課長、阿部企画調整課担当課長、宮崎企画調整課担当課長、田中企画調整課課長補佐、箱島企画調整課担当係長

- 議 題
- 1 開会
 - 2 審議
テーマ：「次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり」について
(1) 目的と進め方について
(2) グループディスカッション
(3) 全体討議
 - 3 閉会

公開及び非公開の別 公開

議事

開会

（司会 唐仁原都市経営部長）

それでは、定刻になりましたので、これより川崎市総合計画市民検討会議第2部会を開催させていただきます。進行を務めます、川崎市総合企画局都市経営部長の唐仁原でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。これまでの委員の皆さまのご意見、ご要望等もございまして、本日配布させていただく資料につきましては、事前にお送りした以外の、追加のものを机に置かせていただいております。事前にお送りした資料をお持ちでない方がいらっしゃるようでしたら、事務局の方にお申し出ください。

配布資料

- 本日の進行表
- 会議次第
- 部会編成表
- 席次表
- 資料1 新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール(案)
- 資料2 第1回全体会 意見シートのまとめ
- 資料3 第1部会 意見シートのまとめ
- 資料4 グループディスカッション・全体討議の進め方
- 資料5-1 次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり
- 資料5-2 子育て・教育分野における現状と課題(付属資料)
- 参考資料1 第1回全体会 開催結果
- 参考資料2 第1回全体会 議事録
- 参考資料3 第1部会 開催結果
- 参考資料4 第1部会 議事録
- 参考資料5 川崎市総合計画有識者会議第1回会議及び第1回ラウンドテーブル 開催結果概要
- 参考資料6 川崎市有識者会議第2回ラウンドテーブル 開催概要

その他としまして、

- 川崎市総合計画ニュース 第2号

それでは、本日お配りしている資料でございますが、

- 本日の意見シート

厚い資料ですが、

- 川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画
- 地域と共に歩むコミュニティ・スクール・ガイド2014
- (仮称)川崎市子ども・子育て支援事業計画素案に関する意見募集について
- 川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画素案に関する意見募集について
- チラシ「川崎市防災シンポジウム」

以上が本日配布資料でございます。不備や不具合がございましたらお知らせいただきたいと思います。

事前に送付している資料の中で、先にご案内させて頂きたいものがございますので、ご準備をお願いいたします。

参考資料の1と2につきましては、10月4日に行いました第1回全体会の結果概要と議事録でございます。また、参考資料の3と4は、11月1日の第1部会の結果概要と議事録でございます。委員の皆さまにはそれぞれ議事録のご確認をいただきありがとうございます。

参考資料5、6につきましては、第1回有識者会議、第1、2回ラウンドテーブルの開催結果

概要でございまして、当日の資料をご希望の方は、別途ご用意しておりますので、後ほどお申し出ください。

また、市民検討会議関係の結果概要、議事録も含めまして、資料はすべて市のホームページに公表させて頂いております。

資料が多く恐縮ですが、第1部会でもご紹介させていただきましたが、先ほど本日の資料として配布しました「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」という、かなりボリュームのある冊子がございます。後ほどの説明で活用させていただきますが、こちらにつきましてはご希望の方はお持ち帰りください。

「地域と共に歩むコミュニティ・スクール・ガイド2014」ですが、中に「学校と地域の連携について」という資料を折り込んでございます。参考に後ほどご覧いただければと思います。

また、(仮称)川崎市子ども・子育て支援事業計画素案など2点ですが、本日のテーマに関係する川崎市の計画について現在意見募集をしております。ご興味ございましたら是非、ご意見をお寄せいただければと思います。

このほかに、1月15日に開催されます「川崎市防災シンポジウム」のチラシをお配りしております。次回の市民検討会議は1月25日でございますが、前半に第1、第2部会の情報共有を行いまして、後半に「防災・コミュニティ」をテーマに皆さんで議論していただきたいと考えておりまして、このシンポジウムは参考になるかと思っておりますので、ご案内させて頂きました。今後も、こういった議論の参考になりそうな事柄がありましたら、ご紹介させていただきたいと思っております。

続きまして、本日の会議開催に当たりまして、いくつかご説明を申し上げます。

この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開とさせて頂いております。会議の傍聴、報道機関等取材を許可しておりますことをご了承ください。

また、本日の発言につきましては、議事録の確認をお願いしたいと思いますので、その際はよろしくお願いたします。ご確認後の議事録は、市ホームページにより公開してまいります。

説明が長くなりましたが、ここから議事に移りたいと思っておりますので、進行をコーディネーターの磯崎先生をお願いいたします。よろしくお願いたします。

(磯崎コーディネーター)

皆さん、おはようございます。朝早くから、まただいぶ寒くなってまいりましたが、お集まりいただきありがとうございます。改めましてコーディネーターの中央大学の磯崎と申します。

それでは、進行を引き継がさせていただきます。

振り返りますと、10月4日にこの市民検討会議をスタートいたしました。全体会では、市の強みですとか、ポテンシャル、課題を総括的にご議論いただきましたが、時間が足りなかったというご注文、お叱りもいただきました。

本日ここにいらっしゃる皆さんの3分の2の方はご出席されたと思っておりますが、11月1日に第1部会を開催いたしました。テーマは「社会福祉」で、特に高齢社会を支える地域の支え合いということで、主に高齢者の問題をご検討いただきました。この時は2つのグループに分けたのですが、白熱した議論が十分できたという感想を意見シート等で頂戴しております。

今回は「子ども」をめぐるテーマについて、自由にご議論いただきたいと思います。形態としては、第1部会と同じように2つのグループに分かれ、それぞれファシリテーターと市の職員の方に入っていただき、行政の説明と意見交換を並行して進めていきたいと考えております。3時間を予定しておりますので、自由闊達にご議論いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、改めまして議事の1「目的と進め方について」、簡単に説明して頂きます。総合企画局よりご説明をお願いいたします。

資料説明

(久万企画調整課長)

おはようございます。総合企画局企画調整課長の久万と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の目的と進め方ということで、第1回の全体会でお時間の都合もあり、総合計画の策定までのスケジュールや、計画のアウトプットのイメージのご説明が不足しておりましたので、その辺りのご説明をさせていただきたいと思っております。前回の「社会福祉」部会にご参加いただいた方につきましては、同じ内容の説明をさせていただくこととなりますので、ご了承いただければと思います。

資料1をご覧ください。A3横長の資料でございますが、こちらが新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュールでございます。左上に、計画の前提条件をまとめました策定方針とございますが、ここから本格的な検討をスタートいたしまして、市民検討会議と有識者会議からご意見をいただきながら検討を進めております。大きな目標としては、平成27年7月の「基本構想」「基本計画」の素案の策定を目指して様々なご意見をいただきたいと思います。その後につきましては、平成28年度の予算が決定した後、川崎市の場合、市民サービスに関連した事業が900、内部事業を含めると1,600ぐらいございます事業の調整を行っていくわけですが、これらを整理し平成28年3月に実施計画を策定する予定でございます。

ただいまご説明いたしました「基本構想」「基本計画」「実施計画」がどういったものなのか、なかなかイメージがわからないと思っておりますので、こちらの厚い「川崎再生フロンティアプラン」をご用意させていただきました。3ページをご覧くださいますと、下段に計画の構成図がございます。この計画ですと、10年後の「基本構想」と3年間の具体的な事業を記載した「実行計画」という2層で構成されております。これからつくっていく新たな総合計画につきましては、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層でつくろうと考えております。「基本構想」と「基本計画」につきましては、この冊子の「基本構想」にあたるくらいのイメージでございまして、具体的な事業を盛り込んでいく新たな「実施計画」は、99ページの「実行計画」と書いてあるところの個別の事業のレベルと大体一緒とお考えいただければと思います。

続きまして719ページをご覧ください。こちらは10年前に議決された基本構想でございます。これからつくろうとしております30年を展望する「基本構想」は、こちらのページにあります「前文」から、次のページの左側中段の「Ⅲまちづくりの基本目標」までの内容を盛り込むイメージでございます。

10年程度の「基本計画」につきましては、このページの「4 基本政策」にある「視点」です

とか、721 ページの右側中段から始まる「基本目標を達成する7つの基本政策」に示す「(1) 安全で快適に暮らすまちづくり」から726 ページの「(7) 参加と協働による市民自治のまちづくり」までの、このくらいの細かさの内容を盛り込んでいきたいと考えております。いずれにしましても、その内容の検討はこれからでございますが、記載する内容の細かさのイメージをつかんでいただきたいと思います、ご紹介させていただきます。

来年の7月までに、この市民検討会議や有識者会議等でいただいたご意見につきましては、分野ごとに整理いたしまして、このようなイメージのものに反映させていきたいと考えております。

この文章を読んでいただきますと、「ぼんやりしている」ですとか、「内容が具体的でない」など、さまざまな印象をお持ちかと思いますが、720 ページの「1 基本構想の役割」にありますように、川崎という地域をこれからどのように運営していくのかという基本目標を定めて、議会の議決をいただいて策定するという大変重要な計画でございますので、実際の事業内容につきましては、個別の実施計画の中で検討していきたいと考えております。

今回のテーマである「子育て」「教育」につきましては、251 ページをご覧くださいと、「多様な保育の充実」とあります。次のページに個別事業の一覧が記載されておりますが、子どもが生まれてからしばらくは多くの保護者が保育所に預けるということになります。いわゆる「待機児童」ということで随分問題になっておりましたが、ここに記載されておりますように、川崎市はかなりの数の保育所を整備しております。それでもまだ解消できていないという状況でございます。「待機児童」を解消することだけが市の課題ということであれば、話は簡単なのですが、現実には特別養護老人ホームをつくったり、公園や橋を新しくしたり、災害時の備蓄物資も必要ということで、市に入ってくるお金以上にたくさんの行政需要があるという状況でございます。これから「公園」、「スポーツ施設」がもっとあったら良いというような意見等たくさん出るかと思いますが、そういったご意見も大変貴重でございますので、個々の事業の中でしっかりといかしていきたいと思っております。ただ、全てを実行するのは財政的に非常に困難であるということは、念頭に置いていただければと思います。

これからの議論の中で、施設をたくさんつくるのは無理ですので、みんなが使いやすいように機能を一つに集約したら良いのでは、というのは実行可能ですし、防災の観点から3日間の備蓄を家庭とするなど、行政が出来ないのであれば、市民がせめてそういったことをするよう広報することもできると思っております。そういった中で、できれば市民の方々を含めて皆さんが何かできないかということで考えていただけると、大変ありがたいと考えます。

これからテーマごとに話し合っていく際は、こういった視点で話していただきたいと思います、それを先ほどの「基本構想」「基本計画」につなげてまいりたいと考えております。

先ほどの資料1にあります通り、この検討会議をはじめとして、これまでの市民検討会議の第1回全体会や、アンケート調査、市議会での議論など、さまざまな形で頂いたご意見を体系的に取りまとめで、財政面も含め、今後並行して、事業の見直しなど、行財政改革に関する計画の見直しを進めている別の部署とも役割分担をしながら、「実施計画」をつくってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の進め方でございますが、若干説明させていただきます。

資料2をご覧ください。「第1回全体会 意見シートのまとめ」でございます。表面には、今後

議論したい内容をこれから話し合っていく分野別にしてございます。今回は上から2番目の「子育て・教育」について話し合ってくださいわけですが、裏面の一番上をご覧くださいと、「子育て・教育」というところがございます。こういったことも含めまして、市民の皆さまは保育所に関する問題に関心が高いようでございます。前回は、「高齢者」がテーマで、いかに人生の終盤を豊かに過ごしていただくかということについて話し合ってくださいましたが、本日はいわば人生の入り口ということで、生まれてから学校で学び、青年期を迎え、社会的に自立をするまで、「次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり」というテーマにさせていただきます。先ほども先生からお話がありましたように、会議の進め方につきましては、全体会の中で時間が十分でない、委員間で討議する場がなく残念、行政の説明が長い、論点を明確にしてほしい、などのお話をいただきましたので、今回は論点を明確にお知らせするとともに、行政側の個別の説明についても調整させていただきました。

資料3をご覧ください。「第1部会（社会福祉）意見シートのまとめ」でございます。こういったご意見をいただきましたので、開催のやり方を工夫させていただきました。有意義な議論ができたという感想をたくさんいただきましたので、今回もそのやり方で開催させていただければと思います。まだ内容的には過不足等あるかと思いますが、引き続き改善していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

（磯崎コーディネーター）

ありがとうございます。それでは、いまご説明も踏まえて、私の方からテーマと進め方、全体の共通事項的なものをお話させていただきます。

まず、本日のテーマは「次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり」でございます。一言で言いますと、子どもをめぐる環境をどう整えていくか、子どもにとって良いまちづくりをどう進めていくか、というテーマでございます。今回は3つの小テーマに分けて進めていただければと思いますが、世代順に考えておまして、1つ目は、主に就学前の子どもを対象に「子どもが健やかに成長できる社会のしくみがどうあるべきか」についてご議論いただきます。2つ目は、小学校にあがってから高校くらいまで、学齢期の子どもを対象として、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ということで、どういった支援、環境をつくるかについて、でございます。もちろん「学校」も大きなテーマになるかと思えます。3つ目は、学校を卒業して社会の中に入っていく、若者の自立、成長過程を対象として「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」について、でございます。私も大学におりますので、学生たちが就職に対してプレッシャーを感じながら4年間を過ごしているのがわかりますし、あるいは高校を卒業し社会に出たいが、なかなか希望の仕事が見つからないなどの問題もあるかと思えます。学齢期を終えた子どもたちにどう夢を持ってもらうか、これが3つ目になります。3つのテーマをそれぞれ40分程度でご議論いただければと思います。そして、前回、第1部会にご出席の方はご記憶にあるかと思いますが、この3つについて、それぞれ「家庭でできること」、「地域でできること」、「学校や行政がやるべきこと」という3つの側面に分けてご議論いただければと思っております。

事前に配布した資料や本日お配りした資料を参考にさせていただくことも重要ですが、我々は市民委員ですので、市民の実感と言いますか、生活者としての身近な感覚で自由にご意見いただいた方がよろしいかと思えます。

全体会を11時45分に開始したいと思えますので、その間休憩をとることを考えまして、11時35分までを目途に進めていただければと思えます。したがって、今日は2時間強の時間がありますので、どうぞ自由にご発言をいただければと思えます。進行につきましては、それぞれのグループのファシリテーターについては、MURCスタッフの皆さんにお願いしております。その他にお二人の市の職員に入ってくださいますので、制度の説明などは職員の方にお聞きいただければと思えます。それでは、よろしくお願ひいたします。

グループディスカッション

資料説明

(MURC 西尾)

各テーブルにファシリテーター1名と書記が1名ずつ入らせていただいておりますので、皆さまのご意見をボードに写しつつ進めていきたいと思えます。本日は3つテーマがあり、それぞれのテーマごとに家庭でできること、地域でできること、行政がやるべきことという視点を持ちながら進めていきたいと思えます。最初に、市職員の方から市の状況についてご説明いただき、その後に皆さまからご意見をいただきたいと思えます。最後に再び現在の形に戻っていただき、成果発表をしていただきたいと思えます。発表は各グループの委員の方で分担してお願いいたします。各テーブルに分かれたら、まずは発表者を決めていただきたいと思えます。それでは各テーブルに分かれていただけますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

【グループディスカッション (約135分)】

発表

(第1グループ)

「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」

(小山委員)

よろしくお願ひいたします。「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」について検討した結果、出た意見が、「待機児童の不安のない“実感ゼロ”」でした。これは、横浜市のように待機児童がゼロになるだけでなく、皆の気持ち的に実感ゼロが達成できるようにということです。

次が「伴走型子育てを支える地域・行政」で、子ども、親、祖父母それぞれの世代によって伴走型で子育てを支える地域・行政が必要ではないかということでした。

次が「子育てを気軽に相談できるネットワークづくり」で、親は仕事から帰っていき子育てとなると頭がいっぱいになってしまいますし、今は隣の家の人の顔もわからないような状況ですので、地域に気軽に相談できる寺子屋子育てバージョンのようなものができると良いという意見でした。

また、「多様性を受け入れる開かれた地域づくり」ということで、家族に第二次世界大戦などを知っているお年寄りがいない場合は、そういう方から昔の話を聞く機会がゼロに近くなりますので、お年寄りが地域で孫世代に昔話を伝えられると良いという意見もありました。子どもが孤独にならないようなイベントづくりをした方が良いという意見も出ました。

最後に「安心・安全で年代に応じた楽しい遊び場づくり」ということで、今の川崎市では公園でもボール遊びができないところがあるなど子どもが不自由していて、それが親子げんかの原因となることもあるので、場所と時間を決めて野球などができるようにし、子どもがのびのび生活でき、大人も含め年代に応じて皆がストレスフリーになれる遊び場づくりが大切だという意見が出ました。

「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

(加藤英雄委員)

主に学校教育のことについて発表させていただきます。大きな方向性として基本構想と非常に近いと思うのですが、川崎市には仕事もあり、芸術文化も発展しているので、川崎市自体の魅力を引き出し最大限活用するということが、一番大きなテーマとして「川崎の資源の魅力を最大限に生かしたビジョン・希望を育む体験の提供」があると考えました。子どもたちに向けて、自分が将来こうありたい、こういう仕事に就きたいということを仕事のある川崎市において教育していくことが重要だということです。

具体的に必要になることとしては「子どもの主体性・創造性を養う余暇・遊びを支える地域づくりと行政のサポート」で、遊びや余暇の時間を行政・地域が一体となつてつくることです。

また、「子どもの好奇心・集中力を育てる交流・コミュニケーションを支える家庭・地域・行政」ということで、地域・行政だけでなく家庭での教育も必要だと考えます。

また、「『100%わかる』を支える地域・学校づくり」ということで、100%という表現がふさわしいかどうかは別にして、学力・人間力の向上を地域・学校が一体となつて取り組む必要があると考えました。

「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」

(長野委員)

非常に難しいテーマでした。議論の根幹は幼少期から小学生をどう過ごすかにかかるため、地域と行政がどのように場を形成できているかが重要だと考えます。具体的には、「多世代・多機能が交流し気軽に集まれるかわさきのふるさとづくり」ということで、心のよりどころとなる「ふるさと」が必要です。多感な時期でいろいろな悩みを抱え、いろいろなことを学ばなければならぬため、家庭が大事ということはもちろん、それ以外にも気軽に相談できる場所があると良いと思います。

その中で、働くよろこびとは何かという話になりました。多様な職業があるのでそれに従事する人の話を聞くことで価値観が形成されるのではないかと、親以外のいろいろな方から教えていただける場が必要だと考えたのが「働くよろこび・価値観を子どものときから考えられるしくみづくり」です。

それを支えるのは行政だけでなく、「多様な市民が支え合うコミュニティづくり」が必要であり、そのコミュニティとは、昔からの知り合いのグループなど子育てを軸としたものになると考えています。価値観形成のために家庭で教育が必要になるのですが、親から言う場と、クロスで言う場が必要だと思います。子育てを軸としたふるさとの場が必要だということで、学童保育の場をプラザ化し、そこにシニアなどいろいろな人が集ってふるさとや多様性を学べる場にしてはどうでしょうか。学力不足を補うケア、塾とは違うケアなどもできれば、そこが自然とふるさとの場になるのではないかと思います。

最後に、「再チャレンジできるキャリア支援と就職支援の情報提供」で、そういった場や情報がなく、企業の支援も含め、すでに述べたふるさとの場と連携できるしくみができると思うと思います。ポイントとなるのは、行政と地域と家庭が負担を分担することで一か所に集中しないしくみづくりが必要だと考えます。

(磯崎コーディネーター)

それでは、第2グループの方からコメントや質問があればお願いいたします。
ないようですので、第2グループの発表に移りたいと思います。

(第2グループ)

「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」

(岡田委員)

就業前に関しては、1つ目に「子育て世帯を多世代で支えるしくみづくり」として、核家族化が進む中で地域の高齢者も含めた交流の場づくり、集まれる環境づくりが大切だという意見が出ました。

2つ目が「川崎市として必要な福祉サービスの見極め」です。周辺の自治体と比較すると、23区では中学校まで医療費補助がありますが川崎市は小学校までしかありません。逆に、出産補助に関しては周辺自治体よりも8千円ほど高いにも関わらず、うまくPRができていません。周辺自治体と同水準にすべきという意見と、差があっても良いので、その差がしっかりと考えられたものであり、どのような戦略に基づいているのかについてのコミュニケーションが必要であるという意見がありました。

次に「安心して預けられる保育環境の整備」ですが、公立よりも私立保育所が増えている中で、人材の質が低下しているのではないかという話がありました。施設面でも、待機児童を減らすという名目のもとに劣悪な環境のものが増えているという話がありました。

最後に「子育てサービスを支える財源の多元化」ですが、これについても、他の自治体と同水準あるいはもっと良いものをという意見や、施設や人材を良くするための費用を税収や利用者負担以外のもの、たとえば保育所や公園のネーミングライツなどによって捻出してはどうかという意見が出ました。

「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

(松本委員)

大きく2つの話し合いがありました。まずは「大人が学校教育にかかわる機会をつくる」です。川崎市にあるコミュニティ・スクールは各区に1校程度であり推進がなかなか難しく、先生も忙しくて地域と連携を図ることに二の足を踏んでいる場面もあるのですが、コミュニティ・スクールは学校だけが拠点ではなく、地域でコミュニティ・スクール的な施設ができるのではないかという意見が出されました。また、地域には高齢者や企業人、ボランティア等いろいろな人材が存在しますので、そういった方を活用する機会をつくり、地域の大人が学校に行き一緒に教育に力を注いではどうかという話が出ました。

次に「子どもの学びを中心においたカリキュラム・学校運営」ですが、誰が主役かを考えると、まずは子どもが生きがいを持って生きていくことを学んでもらうためには、自尊心としつけを身につけてほしいという意見が出ました。学校運営については、先生が忙しく授業準備以外にも書類整理やモニターペアレントなどへの対応に追われることも多く、自信をなくしがちなため、まずは先生に自信を持ってもらうことが大切だという意見も出ています。

「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」

(山下千裕委員)

「辛い状況にある人を独りにしない！」ということで、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支えていこう、普及・啓発、引きこもりの若者が地域で活躍する場をつくるという意見が出ました。地域で引きこもっている人の能力を引き出したい、外に出ていく機会を教えることができるとう良いと考えます。

次に「“働く”をリアルに感じる機会づくり」ということで、働くよろこび・仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間的就労の機会をつくり、教育段階での情報提供・体験機会を多様化したいという話が出ました。学校などで皆でする就労体験は業種も限られていますし、リアルにお金をいただく体験ができる場を増やせると良いという意見が出ました。

最後に「“若者の自立”に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要がある！」ということで、家庭・地域・行政・民間の皆で取り組まなければならないことであり、財源としては国や市で役割分担をした方が良いという意見が出ました。

(磯崎コーディネーター)

難しいテーマであり、まとめるのも大変だったと思いますが、非常にわかりやすくまとめていただいたと思います。第1グループの方からコメントや質問があればお願いいたします。ないですね。

投票

(磯崎コーディネーター)

それでは、お一人につき3枚のシールをお渡ししますので、自分のチームの発表内容でも他のチームのものでも結構ですので、ご自分が良い・大事だと思うポイントに貼っていただきたいと思います。主にホワイトボードでまとめたものに貼るとわかりやすいと思いますが、そちらに項目がなければ模造紙の方に貼ってください。それによって支持・共感が多いポイントがわかると

思います。

講評

(磯崎コーディネーター)

では、どういう項目にシールが多いか、確認したいと思います。第1のテーマは、学齢期前の子どもあるいは子育てに対する支援でした。これに対する第2グループのご意見「子育て世帯を多世代で支えるしくみづくり」に3票、「川崎市として必要な福祉サービスの見極め」に2票、シールが貼られました。他に多く貼られたのは、第1グループの「伴走型子育てを支える地域・行政」に3票で、「安心・安全で年代に応じた楽しい遊び場づくり」も共感を呼んでいます。

第2のテーマについては、「大人が学校教育にかかわる機会をつくる」とそれに関連した「コミュニティ・スクールの増設など」にシールが集中し、あわせて7票、他に「川崎の資源の魅力を最大限に生かしたビジョン・希望を育む体験の提供」に2票が集まっています。

第3のテーマについては、「辛い状況にある人を独りにしない！」に2票、「働く”をリアルに感じる機会づくり」に3票集まりました。他には「働くよろこび・価値観を子どものときから考えられるしくみづくり」、「多様な市民が支え合うコミュニティづくり」が各3票と、共感を呼んでいます。

全体をふり返りますと、今回は多岐にわたる議論をしていただいたと思います。前回は高齢者を支えるというテーマで、高齢者が安心して暮らせることを家庭・地域でどう支えるかということで、目標が比較的明確でした。しかし今回は、その目標が子育てしやすい環境をつくるとか、子どもの学力や安全、夢や自尊心を持たせるなど多様でしたので、議論が難しかったように思います。それにもかかわらず重要な指摘をしていただきました。その中でも皆さんの議論の根っこになっていたと思われる3つのキーワードを抽出したいと思います。

1つは、皆さんからも票が集まった「伴走」です。子育ての環境や家庭は多様なため、画一的に支えるのではなく、本人の立場に立ち、また家庭の状況にあわせて相談に応じて「伴走」することが大事だというご指摘に、なるほどと思いました。これは青年期の「独りにしない」にもつながる普遍的なキーワードだと思います。

2つ目は「場づくり」です。遊び場をつくる、大人がかかわる機会をつくるにもつながりますし、地域に開かれた学校運営も1つの場づくりだと思います。

3つ目は「実感・リアル」です。教育の場における「体験」という話がありましたし、働くリアリティを感じるとか、働くよろこびという言葉も出ていました。実感してもらわないと人は成長せず、本当の教育・自立は成り立たないということだと思います。

私自身も大変に勉強になりました。今回のご意見につきましては、言いっぱなしではなく、総合計画策定にあたっての市民の皆さんからの意見として記録されます。それを踏まえて第2回、第3回の全体会で意見・提案をまとめながら良い総合計画にしていければと思います。

3時間半にわたり熱のこもったご議論をいただきありがとうございました。この後、第2回全体会がございまして、1月25日にお集まりいただきたいと思います。その後、第3回部会では暮らし、交通などのハードの問題を扱いたいと思います。それを踏まえて第3回全体会が開催さ

れますので、そこで全体を集約し、総合計画につながる「流れ」を皆さんと一緒につくっていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

閉会

(司会 唐仁原都市経営部長)

磯崎先生、委員の皆さま、ありがとうございました。

磯崎先生からもお話がありましたとおり、次回の全体会は1月に開催ですが、2月初旬にこれまでの検討経過を議会に報告する予定となっております。先週金曜日に議会が終了したのですが、その中で、市民検討会議でどのような議論がなされており、それに対して市長はどのような感覚を持っているのかというお話が出ました。市長からは、いろいろな世代がいろいろな場所で交流できる場所が必要だという意見が市民の皆さまから多く出ているというお話がございました。また、行政内部への叱責も含めて、市の取組が市民の皆さまに伝わっていないというお話もございました。市民の皆さまから出るご意見の中には既に市で実施しているものもあり、市からの情報が必要な人にすら届いていない恐れがあるということで、市長も大変気にかけておりました。次回1月25日の全体会は本日と同じ高津区役所で開催いたしますが、別途ご案内させていただきます。

最後に2点ほど連絡事項がございます。

1つ目ですが、お手元にお配りしている「意見シート」に必要事項をご記入いただき、お帰りの際に受付にいる職員にお渡しください。

2つ目ですが、繰り返しになりますが、年明けに全体会を開催いたしますのでご出席をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして「総合計画市民検討会議 第2部会」を終了いたします。

本日は長時間にわたりご議論いただき誠にありがとうございました。

以 上